

非政府組織、ユネスコクラブ、協同学校および その他の関係団体のための実践の手引き

——一九九〇年国際識字年（ILY）——（仮訳）

部落解放研究所識字部会

以下の資料は、一九九〇年の国際識字年（ILY）にむけてユネスコと連携して活動する識字に関するNGO、ユネスコ非政府組織常任委員会によってまとめられた手引きである。それは、序章に明らかのように一九九〇年の国際識字年（ILY）を単なるお祭り騒ぎに終らせるのではなく、二〇〇〇年までに全世界から非識字状態をなくするための積極的で具体的な行動を呼びかけた、言わば行動計画的性格の文書である。

研究所識字部会では、昨年より継続して一九九〇年の国際識字年（ILY）に関する資料収集と研究

に取り組み、この文書の存在を知ったわけであるが、日本では、政府が国際識字年に消極的姿勢のため、残念ながらこのような重要な文書が翻訳紹介されない状況にある。翻訳にあたっては、部会員の岡嶋和夫、河野信幸、森実氏が主として担当した。

紀要『部落解放研究』六五号（一九八八年二月）所収の森実「一九九〇年の国際識字年にむけて——資料と解説——」、同三三号所収の平沢安政「識字運動の国際連帯にむけて」とあわせて活用いただければ幸いである。

（編集部）

目次

はじめに

序章

目標1〈各国政府の取り組みの強化〉

- A、準備と計画
- B、組織化と実行
- C、モニターと評価
- D、識字後の活動

目標2〈啓発〉

- A、識字へのメッセージにふさわしいいくつかのテーマ

- B、メッセージの発掘
- C、メッセージの正統化
- D、メッセージの普及

目標3〈参加者の拡大〉

- A、新たな組織的な協力者の見極めと活性化
- B、いくつかの実行可能な活動

目標4〈加盟国間の協力〉

- A、理念
- B、途上国どうしの技術協力（TCDC）
- C、北と南の交流
- D、物資の協力

目標5〈国連・政府・NGOの協力〉

結語

はじめに

A、団体の内部で

B、団体の間で

一九八七年の末、国連総会は、一九九〇年を「国際識字年」とすることを宣言するとともに、ユネスコに対して、識字年の準備と開催に向けて国連システム内で中心的な責任を負うよう要請した。

この重要な決定の背景を略述するのは、比較的かんたんである。主として基礎教育の提供が増大し改善されたおかげで、世界の成人人口に占める非識字者の比率は、しだいに低下しつつある。その比率は、一九七〇年代初頭には約三分の一だったが、今日では四分の一にまで低下した。現在の傾向が今後も続くとする、今世紀末には五分の一にまで下がるものと思われる。ところが、人口増加のために、成人非識字者の絶対数は増え続けているのだ。一九七〇年にはおよそ七億六千万人、それが現在では八億九千万人になっている。そしてもし現在の傾向が変わらなければ二〇〇〇年にはおそらく九億一、二〇〇万人にまで達するであろう。

男性よりも女性のほうが、問題は大きい。男性の五人に一人が読み書きできないのに対して、女性の場合その数字はほぼ三人に一人なのである。また、学齢期の子ども一億人以上が学ぶ場所を持っていない。つまり、水源のところで問題は拡大しつつあるということだ。学校および学校外識字プログラムで学んだ数多くの

人々も、読み物が不足しているため非識字状態にもどってしまうおそれがある。そして、多くの産業諸国において、青年や成人の中に日常生活でうまく読み書きできないという「機能的非識字」が広範に見いだされている。広い範囲にわたる非識字は、経済的・社会的な発展を大きく妨げるばかりでない。それはまた字び、知り、伝えるという基本的な人権のはなはだしい侵害でもあるのだ。

このような背景に対して、ILYでは、すべての社会的な諸勢力によって企てられている識字の取り組みに「注射」をすることが意図されている。もちろんこうした社会勢力には、ユネスコと公式的な係わりを持っている国際的なNGOの団体も含まれる。

事実上設立以来ずっと、四〇年以上にわたって、ユネスコは非識字との闘いにおいてNGOと協力してきた。近年、ユネスコとNGOの協力によって生みだされた主な成果は識字に関するNGOの全体会議が年に一度行われるようになったことである。第四回の全体会議が、一九八七年一月にバンコックで開催された。その会議は、好機を逸することなく行動が始められるよう、この手引きが一九九〇年の国際識字年に先立って発行されるよう満場一致で勧告したのである。

この手引きは、個々のNGOおよびNGO連合体の過去の経験にもつづら基ついで作成された。常任委員会やユネスコ事務局は、この手引きの作成に協力したが、その意見が必ずしもここに反映されているわけではない。

一九八八年 パリ

NGO常任委員会

この手引きは、個々のNGOおよびNGO連合体の過去の経験にもつづら基ついで作成された。常任委員会やユネスコ事務局は、この手引きの作成に協力したが、その意見が必ずしもここに反映されているわけではない。

この手引きは、これらの団体すべてに対して向けられている。以下これらの団体を総称して、NGOおよびその他の関係団体と呼ぶことにしよう。

この手引きは、教育一般とりわけ識字活動を促進させるために、ユネスコがNGOや他の関係団体と協力した経験にもとづいて作成されたものである。また、ユネスコがILYの準備のために一九八六年のはじめから開催してきた一連の協議会で行われた提案を十分に活かしている。

提案する活動の選択にあたって、つねに考慮した基準がある。それは、ほとんどの団体が現在直面している資源の制約を十分考慮して、提案する活動が、明確で、控えめで、かつ現実的であるべきだということである。それゆえに提案するほとんどの活動は、比較的次のような性格が強い。

費用がかからないこと（多額の新しい財源を作り出すよりも、既にある組織、人的資源および財源を整理し直すこと、あるいはより系統的に活用することがしばしば必要である）。

短期間であること（しかし、ILY以後もその効果は継続して感じ取られなければならない。ただ、効果が持続するかどうかを事前に予測することは、方法にもよるがたいいていの場合必ずしも、い）。

直接の対象者、地理的な範囲を限定すること（しかし「増殖効果」はむしろべきである）。

「国際識字年（ILY）」は、「祝典」ではなく、行動へのよびかけたるべきである。これは、一九八七年五月にモンゴル人民共和国ウランバートルで開催されたILY準備国際シンポジウムにおいて満場一致で確認されたことからである。このことに対して、誰が異議をはさむだろうか？ この手引きのねらいは、関係団体がその「行動への呼びかけ」に対してイメージ豊かに答える手助けをすることであり、ILYの準備と開催に向け、実践可能な数多くの具体的な活動を示唆することである。

各国政府は、ILYにきつちりと取り組むうえでの中心的な課題を明らかにするとともに、その主要な責任を負うべきである。そこで、各国政府に対しては、ユネスコが独自に計画についての勧告を作成しつつある。しかしながら、成功をもたらすためには、政府のイニシアチブが、正規の行政の一部分でない諸団体を通じて、できるだけ増幅し拡大されなければならない。多くのそのような団体もまた、自らのイニシアチブを進めていくことを望んでいるであろう。これらの団体には次のものが含まれる。まず各国のILY国内組織委員会、あるいはそれとは別に識字年に向けて（例えばユネスコ国内委員会内部に）特に創設された組織があげられる。その他、国内の一地方・全国・広域および国際NGO、ユネスコクラブとユネスコ協会、ユネスコ協同学校ネットワークに関与している教育機関がある。国連協会、国連の青年学生組織、ユニセフ国内委員会、飢餓からの自由国内組織および多く

および、結果が具体的に表われること（少なくとも部分的には測定可能な結果であることが望ましい）。

提案する活動のリストは、参考例や示唆程度であり、提案とおりに行われたいというようなものはない。ある団体（たとえば、学校内のユネスコクラブのような団体）では、おそらく一つか二つの活動を引き受けようと思うだけだろう。また別な団体（たとえば数百万のメンバーを擁する国際NGOなどの団体）は、おそらく以下に提案する数多くの活動を含む組織全体の「ILYのマスタープラン」を採用しようとするだろう。どんな場合であれ、読者に期待されているのは、この手引きの実践的な精神に刺激され、記憶に残るような形でILYを印象づける、さまざまな想像力に富んだ活動を発見し、考え出すことである。

この手引きは、団体相互間、および全世界（発展途上国と産業諸国）を視野にいれて書かれている。それでもやはり、関係団体はその立場や経験、優先するもの、方針等を勘案してそのアプローチを変更したいと思うであろう。非識字率が八〇％、就学率が二〇％という国は、識字率が九〇％でILYも「国内読書年」として計画したほうが適切な国とはいくぶん異なるニーズをもっていよう。産業諸国も、途上国の識字活動に貢献することを望んでいる一方で、市民の間に機能的非識字の問題を抱えており、特有の要求をもっているということが出来る。

この手引きでは、ILYの主な目標六つのうち以下の五つの活動について順番に提案している。それらの目標を要約すれば、以下のとおりである。

1、非識字あるいは機能的非識字に悩む加盟各国政府が、それらの問題を取り除くための行動を拡充すること。

2、非識字と闘うための方法や条件だけでなく、非識字の広がり、特質、およびその含んでいる意味について国民の啓発を強化すること。

3、国内および諸国間で、非識字と闘う運動に参加する人々を増やすこと。

4、非識字との闘いにおける加盟国間の協力と連帯を強化すること。

5、非識字との闘いにおける国連システム、及びより一般的にはすべての政府間並びにNGOの間の協力を強化すること。

(6番目の目標、すなわち非識字を二〇〇〇年までに無くすための行動を開始することについては、後でひとこと言及する)

当然、これらの目標のうちあるものは、NGOや他の関係団体よりも政府の行動とより直接的に結びついている。また、同じ活動が複数の目標に貢献すると見なしうることからわかるように、目標どうしで重なっている部分もある(例えば学校の姉妹提携は人々の意識を高めるとともに参加も促進できるだろう)。だから、この枠組みは、固定した排他的なものというよりは柔軟で暗示的なものと考えるべきなのである。

タイミングや計画は以下に提案する諸活動にとって重要である。一方では比較的かんたんに組織しうるものがわかっている活動もあろう。他方で(例えば写真やポスターのコンテストのように)、識字年の間にはつきりした、広がりある成果を期待されて

いるものは、ILY以前に余裕をもって取り掛からなければならぬだろう。

ユネスコ本部およびユネスコ地域事務所は、関係団体に対して主に非識字の問題および識字活動についての技術的な情報、統計、写真、映画、ラジオプログラムやその他の援助物資という形で限定した援助を提供するにとどまる。識字に関わるユネスコの資源についての案内は、求めに応じて英語、フランス語、スペイン語で提供される。残念なことにユネスコから手に入れることのできる財政的援助は、名目的な額といわざるをえないほどに限られているだろう。さまざまな形の援助については次の住所に問い合わせていただきたい。

〈International Literacy Year Unit UNESCO

HOUSE 7, Place de Fontenoy 75700 Paris, France〉

国際識字デーが毎年九月八日に行われること、そしてこれをILYの期間中および前後に識字問題に関する注意や関心、参加や行動を集中するための適切な「機会」としうることを銘記された。

目標 1

非識字あるいは機能的非識字に悩む加盟各国政府がこれらの問題を取り除くための活動を拡充すること

多くの国々において期待されているのは、ILYがきっかけとなって、国家的なキャンペーンが開始されたり、特定地域(一、

二の都市・地域・地方)、あるいは特定市民(女性・青少年・もっとも貧困な層)をおもな対象として突貫計画が着手されるなど、ILYが新たに大きなイニシアチブをとりはじめる機会となることである。しかし、場合によっては、厳しい財政的制約のため、より限られたアプローチ、あるいは利益につながるアプローチを余儀なくされることもあるだろう。

ほとんどの場合、政府は識字の取り組みを強化する原動力とならなければならない。実態調査、ニーズの把握、優先的課題の決定や政策の確立、法律のおよび行政的な基準の準備と採用、カリキュラムの入念な仕上げ、教材や読み物の企画と作成、スタッフの募集と訓練、モニターや評価の手順の決定と適用、および識字後の活動など、識字活動のさまざまな側面を計画し実施していくために必要なイニシアチブを取るのには政府なのである。

しかし、これらのすべての局面で、NGOやその他の関係団体の貢献は重要であり、ときには欠くことのできないものである。NGOや関係団体の役割は多様であり、その役割がどのようなものとなるかは、政府が考え着手する行動がどのような範囲と種類のものか、その行動が必要とされる状況とはどんなものかという二つの側面によって決定される。

状況によっては、唱導することが中心的な役割となるだろう。この場合関係団体は、識字に対する国の政治的意志に火をつけ、それを強めるために努力するのである。

政府に意志はあるが、技術的な経験やノウハウが十分ともなっていないような場合には、実験的な取り組みや先導的試行がふ

わしい。

政府主体のイニシアチブを拡大し増殖することが鍵となる場合もあるだろう。

これらの役割のうち二つないしすべてを結び付けることが多くの場合必要である。

政府との協力を強めたいなら、関係団体は、早い段階で政府の行動を促進し拡充するための実践的な後援組織を工夫し創設することだ。それは、新たな官僚組織をではなく、知らせ、勧め、活性化することをめざした「神経組織」のようなものとなるべきである。

いったん上のように役割や組織が決められれば(もっともそれらは発展していくものだが)、次に政府の行動を育み広げるための諸活動を考えることができる。整理して述べるために(おそらく実際には違った論理の進め方が必要とされるだろうが)、ここでの事例は、識字活動の主要な段階にそってまとめておく方がよいだろう。

活動は、「隠された資源」を大いに掘り起こし動員するよう企画されることが望ましい。すなわち、枠組、経験、知識、人的資源、そして一般的な創造力などで、それらは、かならずしも識字活動に関連するものとして知られ、意識されているものとはかぎらない。このことは、財政がひっ迫しているときにはとりわけ重要である。財政のひっ迫は、特に(識字活動も含めた)社会的な投資に影響を及ぼすものと見られるからである。

A、準備と計画

1、関係団体はまず、「識字国勢調査」、あるいはその他の特
にコミュニティや職場など地域レベルでの実態調査やニーズの把握に
参加したり取り組むのがよい。必ずしも複雑なものを実施する
必要はない。また、量的な情報に留まらず、質的な情報をもた
らすことが重要である。

2、研究の一般化と普及もまた、すくなくとも一部の関係団体
においては、いまよりも大きく貢献し、より大きな利益をもたら
しうる分野である。

(A) 専門的なNGO(言語学者、教育者、メディアの専門
家)は、政府のスタッフを手助けするばかりでなく、大衆団体や
行動志向の団体の求めに応じて専門性を活かすことが望ましい。

(B) 多くの関係団体は(専門家の団体はもちろん「活動家」
の団体も)、識字関連講座や高等教育機関でのセミナーの組織化
に貢献するのがよいであろう。

(C) 識字の専門家が、関連する大学の学部や政府の部署で
「住み込みの学者やインターン」として勤務できるように、多くの
関係団体は、非常勤あるいは専任の職を設けることにイニシアチ
ブを発揮(する)とともに候補者を提供すべきである。

(D) 学生教員組合はさまざまな学級の修士や博士課程の志願
者に、識字に関連するテーマで卒業論文や学位論文を指導した
り、その研究に対して奨学金を設けるべきである。

(E) 実質的にすべての関係団体は、以下にあげた教育改革に
関するユネスコの地域ネットワークに貢献するとともにそこから
学ぶことができる。

● 開発に向けた教育改革のためのアジアプログラム(APEI
D)

● アフリカにおける開発に向けた教育改革のためのネットワー
ク(NEIDA)

● 開発に向けた教育改革のためのカリブネットワーク(CAR
NEIDO)

● アラブ諸国の開発に向けた教育改革プログラム(EIPDA
S)

(F) 多くの国内、国際NGOは、政府機関および全国レベル
の関係団体や、とりわけ地方レベルの関係団体(後者はしばしば
専門的な情報の流入を欠いている)に対して、自らの専門的な出
版物(会報、パンフ、雑誌など)による系統的な普及宣伝を担う
べきである。また、そのような専門的な文書の「文庫」を作り、
それを普及すべきである。

3、政策立案と法案作成は、NGOや他の関係団体の経験や洞
察によって豊かにされるだろう。関係団体は、次のような手だて
を考慮することが望ましい。

(A) 識字政策に関する特別「白書」の作成。

(B) 法案に関する公聴会組織化への参画。

(C) 特定のテーマについて、特にしっかりとした見解を表明

する。たとえば、基礎的な識字能力を身に付け維持していくため
の学校教育の役割について教師と親と児童・生徒からなる協会が
合同で協議し始める。あるいは、女性団体および女性問題関連団
体が識字活動における女性問題を強調し、女性の参加を促進した
り、共同で話し合ったりし始めるのである。

(D) 基礎教育、成人教育、女性の地位等に関する国際的な規
範たるべき主要な文書やガイドラインについて学習し適用に努め
る(これらの領域において国内法や政策の基準とするべき国際的
な勧告や宣言や条約に、自国の政府が署名していることを、普通
の市民はほとんど知らない)。

B、組織化と実行

1、識字活動を行う人々に対する事前研修および現職研修のた
めの施設、とりわけ実際に識字学級を維持していくために必要な
施設やその他土台となるものがしばしば不足している。よって、
関係団体が単独あるいは合同でなすことは、以下のとおりで
ある。

(A) 青少年のワークキャンプや他の形のボランティア活動を
(例えば週末に全所帯で)組織して、次のようなことを行う。

- ・ 新しい学校や識字センターを建設する。
- ・ 建物を直したり、他の場所(工場、農場、役所、商店、市場な
ど)を識字活動用に改造する。
- ・ 黒板や椅子、机、書棚などもっとも必要でありながら、しばし

ば欠けている設備を作ったり修理したりする。

(B) 識字および識字関連の活動のために自らの施設を提供し
て模範を示す(国・州・県・地方の事務所、トレーニング・セン
ター、キャンプ場)。

(C) 識字活動のために、自らの施設以外の経済的・社会的・
文化的な基盤—もちろん家庭も忘れてはならない—が組織的にか
つ快く貸与され設備が整えられるよう、それぞれの構成員に(そ
してより広範な市民に)積極的なキャンペーンを実施する(量的
な目標を定めるとよい。例えば全国的識字キャンペーンを展開し
ている国では、専門職や企業家の厚生団体は、ILY期間中、そ
のメンバーの五〇%が、週に三晩は企業や家庭において教室のス
ペースを保障する)。

(D) 識字の学習者や活動家・指導者、設備および用具などの
輸送手段の不足は、しばしば識字活動を妨げているので、関係団
体は会員に業務用や個人用の乗り物の貸与を奨励する。

2、関係団体はまた、識字活動を必要とし望んでいる次のよう
な特定の社会集団に、届き、教え、理解できるように、特に鋭敏
でかつ効果的なコミュニケーションの回路でありたい。

(A) 必ずしも通常の行政的な恩恵を広く受けていない盲人、
交通事故障害者、言語的・民族的マイノリティ、難民、移民、シ
ングルマザー、犯罪者など、差別され権利を侵害された個人や集
団および社会的身体的に障害を受けている個人や集団(例えば、
すべての公共図書館に「点字コーナー」を設けることがふさわし
い目標となる国もあるだろう)。

(B) その他、ふつうは識字活動の「対象者」と考えられていない範疇の人びと。たとえば、識字教育が実施され農民が新たに民族語で読み書きできるようになってコミュニケーションが可能となったにもかかわらず、公用語以外読み書きのできない農業改良員や健康普及員。

3、識字活動やそれに結びついたプログラムのスタッフを募る。この領域は、NGOや他の関係団体が効果的で持続的なサービスを提供できるとわかった領域のひとつである。

(A) 関係団体の会員、その潜在的潜在的な支持者などの個人を動員する。これについては次の目標3「人々の参加を増やすこと……」でふれている。

(B) ここでは、構成員それぞれが提供できる個人的な技術に加えて、関係団体自体が、

・ その組織としての記録や公約、計画などを通して、

・ 「組織の能力」と呼びうるものを提供できることを示唆しておきたい。

たとえば青年および学生組織、女性団体、労働組合ならば、青年や女性を識字活動に（講師や学習者として）動員しようとするあらゆる試みや、これらの集団に限定して意見を述べざるすべての試みに対して特別な洞察力を提供することができる。

また都市の住民を地方での活動のために訓練するにあたっては、キャンプや体操や健康など「生き残るための技術」に通じている非公式な団体や農民組織ならば、訓練を受けた者が識字活動に従事したい、知的・心理的・社会的・肉体的に適応し、うまく

すべての当事者（決定を下す人など上位レベルのスタッフだけでなく、学習者や講師）が、できごとを記述し解釈することを手助けするのである。

D、識字後の活動

言ってみてもないことであるが目標1のめざすところは、基礎的な識字率を高めることとともに、識字後の活動、即ち読み書き算の力を実際に維持し、使い、発展させられるようにする活動を政府が拡充するのを保障することである。

NGOやその他の関係団体は、上述した基礎的な読み書き能力達成を目指す場合と同様の役割や活動を通じて、識字後の読書や学習の戦略についてもその定式化と実行と評価に貢献しうる。経験が示すところによると、そのような戦略がなければ、基礎的な読み書き能力さえも失われてしまう危険性がある。

関係団体は、単独あるいは合同で、書き言葉の継続的で活発な創造、習得と普及、交流と使用を促進する毛細管組織となりうるのである。

目標 2

非識字の範囲や特質および含まれている意味、さらには非識字と闘うための方法や条件について大衆の意識を高めること

くやっついていきやすくすることができる。

4、投資を受けた団体は、新たに読み書きできるようになった人のための教材や読み物の企画、テスト、制作、および普及に非常に貴重な援助をすることができる。なまじうすることは、とりわけ次のようなことがらである。

(A) それらの出版物が、自らの体験に即して現実に基礎をおいた内容（テーマ・筋道）となっているか助言する。

(B) 出版物の原案について、（言葉の難しさ、グラフィックの体裁、テーマの魅力を）実際にテストする機会を設定する。しばしば無視されているが、これは重要な活動である。

(C) 自らのネットワークを通じて教材を配布する。

(D) 各団体の対象範囲内にいる学習者や新たに読み書きできるようになった人々のために、テキストを作成する（特別にパンフレットやセットになった冊子を企画すること、団体自身の会報や雑誌にページや項目をあてること）。

C、モニターと評価

1、識字活動の進展状況を評価するに当たって、NGOや他の関係団体は、達成度や問題点に関する公的なルートを補い、（一般的に質に関わる）情報や分析を提供して、いわば「脈拍を調べる指」となることができる。

2、キャンペーンや計画の終りの時点では、関係団体は、参加研究法による評価にとりわけ適している。参加研究法の下では、

脚色し単純化しようとする誘惑は理解できる。けれども、「識字」について、公式化された簡単にわかって貰えるようなまとまった言葉はない。非識字についての一部メディアの取り扱いを見ると、まさに非識字者はどこか病的で生まれつき非文化的であった救いがたい障害を持っているかのようにさえ思える。しかし、非識字者は人間である。学ぶことを必要として要求している人間であり、「売りに出される生産物」ではないのである。

幅広く人々の注目を集めているほかの世界的な社会問題と比較してみよう。識字活動は、おもだつた病気に対する免疫を子どもに付けるという困難な仕事にもましてひじょうに複雑である。識字には非常に時間がかかる。文字を分かち与え、修得するのはさらに困難で費用もかかる。また、いつあともどりするかわからない。学校を出た者や新しく読み書きできるようになった人々の間で、ときには憂慮すべきほど高い比率で非識字への逆戻りが見られるのである。

人々の意識を高めるといふ課題とそれへの挑戦は非常に大変なことである。では誰が、どのように立ち向かっていくのか。

何らかの社会的な関心やかわりからILYに興味を示すNGOや団体のほとんどは、あれこれの市民の集団に根ざしていたりそうした集団と近い関係にあるので、営利主義的発想に支配されずにすむ。それゆえ、これらの団体は、識字と非識字といったテーマについて、人々への調和のとれた啓発活動を促進し率先していくにふさわしい。

手引きの本項では、関係団体が考え、決定し、行動しようとする

るであろう四つの話題に目をむける。すなわち、「識字にかんする(メッセージ)」のテーマ、メッセージの発掘、メッセージの正統化、メッセージの普及という四つの話題である。

A、識字のメッセージとしてふさわしいいくつかのテーマ

テーマは、読者、あるいは「聴取者」、「視聴者」などの中心がどのような人々なのかによって異なってくるだろう(例えば、一般市民なのか限定された人々なのかというように)。また、伝達手段がどのような種類であるのか(例えば、新聞なのか、ポスターなのかなど)によって内容の選び方も左右される。さらに、あるメッセージを人々の心につなぎ止めるには繰り返しが必要であるが、やり過ぎると飽きられ遠ざけられるだろう。だからテーマの選択にあたっては、多様なテーマを選ぶことがモットーとなる。そうしたテーマには次のものが含まれる。

1、非識字と識字の現状と動向は、他の何より入門にふさわしい。なぜなら教師をはじめ教育者や親など、まさに直接的に関係する人びとでさえ、世界のことはもちろん、自らの地域社会や国さらには国をこえた地域の基本的な実情と数値について、驚くほどわずかな人しか知らないからである。

2、どのような集団が特に弱い立場にあるのか。そのような集団に目立って集中している特有の実態、およびそうした集団の中で展開されてきた特別な取りくみに焦点をあてることは、有効である。たとえば次のような集団がある。

(A) 一般的に男性より高い女性の非識字率と男児より低い女性の就学率、そして、これらの事実が、市民、生産者、母親であり、同時に草の根的な発展の潜在力である女性に及ぼす影響。

(B) もっとも貧困な人々。土地を持たない農民、(途上国だけでなく産業諸国における)底辺の都市住民。

(C) 障害者。彼らを手助けし、読み書き能力を身に付け、それを保持できるようにする独創的なプログラム。

3、非識字と低開発。経済的・社会的・文化的に剝奪され排除されていることとの相関関係。

4、ヒューマンな興味深い話。読み書きのできない人、新たにできるようになった人、識字活動家などの個人的な体験や考えをめぐって一般の人物が談話を述べたり、インタビューしたりすれば、特に説得力をもって一般聴衆にテーマを「身近」に感じさせることができる。

5、歴史的なテーマ。さまざまな状況下での読み書きの始まりと普及は、文化的・政治的・宗教的および技術的な発展としばしば密接な関連があり、ひいては、個人および集団のアイデンティティーの核心に深く関わっている。うまく提示すれば、歴史的なテーマは人を引きつける。

6、未来を考える。声に反応するコンピュータやロボット、本のカセット録音、卓上印刷などの衝撃はどのようなもので、どのようなことがありそうか? 「識字の未来と未来の識字」というテーマについて考えることは、(一人の書き手がすでに書いているように)好奇心をそそるであろう。

7、特定の対象者には、特別なテーマを。看護婦、労働組合員、弁護士、小売商、洋服屋、鍛冶屋など、何らかの形で書き言葉や計算能力に依存する職業や、商業メディアに接する機会の多い職業をあげれば、ほとんどきりがなほほどである。特定の職業に狙いを定めた記事や放送は、特に衝撃力を持つだろう(あるアフリカの仕立て屋は、彼が書いて寸法計算をするのを学んで以来、不満をもつ顧客の教も苦情もかなり減ったと説明して、以前は無関心だった同業者をこのころでは引きつけるに至っている)。

B、メッセージの発掘

識字に関する報道価値のある話題や素材は、多くのNGOや関係団体の内部や周辺から、探したり選りすぐることによって、思いもよらずたくさん手に入るだろう。もっとも、計画的に探し出すことが必要である。年一回のユネスコの国際識字賞の経験によれば、競いあいと賞はテーマの内容を掘り起こす良い方法である。またそれ自身がニュースとなる。

1、既存の賞や勲章を、IELVに向けての識字活動に与えることができるかもしれない。一方、この年に際して(一回限り、あるいは長期、定期に)、新しい賞とコンテストが創設されるのもよい。

2、競いあいはレベル別に(学校、クラブ、市、地方、国、国内あるいは国際NGO、NGOのグループなどすべてで)行うことができる。また、カテゴリー別に(専門家とアマチュア、教師

と学生・親、個人と団体というふう)行うことも可能である。

3、賞は、以下にあげる多様な功績ある努力のうち一種類だけ、数種、あるいは多くの種類にわたって設けることができる。

(A) 識字教育それ自体に。例えば、講師の指導者としてもっとも優れた人、もっとも優れた講師、もっとも効果的な教材、もっとも献身的な支援活動(例えば母親受講生のための子どものデイクエア)、学校内外の環境設定におけるもっとも優れた方法論的な革新。

(B) 学習者の達成したもの。読み、書き、話し、聞き、議論した作品や活動、そのコースに関連した活動の成果(畜産、野菜作り、劇団その他の文化的表現、スポーツ・チーム)、識字後活動(地域図書館の自営、村の新聞)。

(C) 識字関連活動と識字促進活動への従事。研究(学位論文、本、論説、セミナー)、メディア(まとめとして映画やTV番組のフェスティバルを開催してもよい)、ラジオ放送や記事(一般紙および専門紙)、歌(識字のキャンペーンソングのレコードを制作発売することもできる)、ポスターや写真(賞を取ったポスターは印刷され配布される)、優れた応募作品の巡回展示をしてもよい。

4、競いあいに金をかける必要はない(賞は名誉を与えるものあるいは何か象徴的なものでよい。多くの国々では教師の月給は一〇〇ドル程度なのだ)。必要な費用は、個々の国際NGOや他の関係団体およびその連合体(財団や出版組合など)による後援から引き出すことができる。

C、メッセージの正統化

上述したように、識字と非識字のテーマは普通「ホット・ニュース」と見なされるようなものではない。たとえ人目を引くように作られていても、特別記事やTVドキュメンタリーがその一ページ目やもっともいい放送時間帯にとりあげられるには、特に「何かそれ以上のもの」が必要なのである。

情報・啓発活動およびILYに関連して実施されるその他の行動に、そのような付加的な正統化する次元をもたらすために、著名な大人物（画家、作家、メディアの有名人、スポーツ選手など）からなる一つあるいはそれ以上の専門的なILY団体を創設することができる。

「名譽後援団体」、「賢人会議」、「識字使節団」（文脈やメンバーによって他の名前がふさわしいこともあるだろう）として活動するような組織が、国内および国際NGOや他の関係団体のそれぞれ、あるいはその連合体によって設立されるのもよいであろう。

そのような著名人による委員会は、ILYに人を引きつけるといったたつたそれだけのためにつまらぬ名士から選ぶべきでない。必ずしも直接教育や識字に関係したせまい領域の職業の人に限る必要はないが、誠実な社会的関心で知られ、それを表明している優れた人々から注意深く選ぶことが望ましい。

D、メッセージの普及

おそらくここで最初になすべきことは、だれにむけてメッセージを発するのか、聞き手をはっきりさせることである。非識字と識字についての情報の普及・啓発を目指して、NGOと関係団体は、何重もの同心円の中心にあって外に向かって働きかけるものと自らをみなすのが、たぶんもっともよいであろう。

中心にある円は、関係団体自身のもっとも活動的なメンバー・事務局員、スタッフ、活動家などで構成されている。二番目の円には、より受動的だが、会費を払い会員証を持っているメンバーが含まれる。その次にくる円は、顕在的・潜在的な共鳴者である（これは、個々のNGOや団体が主な対象とする人々やその周辺にいたるのがどんな人々であるかによって異なる。たとえば、国會議員なのか、大学人、行政官、親、子ども、主婦、ジャーナリストなのかなど）。その外側の円は、最後の周縁、すなわち「一般市民」にまで広がっている。たとえ分類できなくてもこの部分が、巨大かつもっとも重要である。ここには、多くの場合読み書きできる人だけでなく、できない人々が含まれている。

識字メッセージの普及活動は、組織の「中心」と職業との「距離」のちがいをうまく考慮にいれていくべきである。以下に提案する活動は、いちばん中心にある円は除いて、幾つかの同心円あるいはすべての同心円のなかの聴衆となる人々にあうように応用し変更されるが望ましい。

1、「アットホーム」に始める。会報、紙面、放送、教会の週末の黙想の時間、集いなどを通じて、関係団体は、彼ら自身のリーダーたちやスタッフ・活動家に知らせることからおそらく始めるべきである。

以下は、順不同である。

2、メディアの活用

(A) 投書欄やラジオ・テレビの視聴者の時間を、事実や絵、逸話（ユーモアを忘れずに）などの情報であふれさせるようメニューを奨励するキャンペーンにとりくむ。

(B) 参加団体の動きや、より一般的な識字のトピックスについてのメディアを定期的に（週刊、月刊などで）発行し供給する。地方・国あるいはもっと広域のILYニュース・サービス網を設立することである。これは、団体相互のプロジェクトとして設立することが望ましいであろう（ジャーナリストや宣伝担当者の専門職組織は発行の準備を自発的に助けるようにするとよい）。

(C) (自発的意志を持った) 出版社、放送局職員、編集者、ジャーナリストのための討論集会の開催。

3、教育制度（理事者、教師、親、児童・生徒）にアプローチし、以下のことをめざす。

(A) 学校や大学におけるカリキュラム（ユネスコ協同学校の論証によれば、識字に関する課題は公民、歴史、地理、数学、語学、外国文化の課程で取り上げるのがふさわしい）と課外のクラブやサークルおよびその他のさまざまな種類の活動に識字関係のテーマを含める。

(B) ILY前を中心としつつ、ILYの期間中もまた、発展性のある教師の事前研修と現職研修を集中的に行う。

(C) 教師や学習者にふさわしい、教訓となる資料および（かかれた資料だけでなく話や視覚的なものも含めて）クラスや学校外で教育的に利用できるような補助教材を準備し配布する。

(D) ILYの期間、学校や大学の試験に識字関係のテーマが含まれるよう保証し、そして知らせるよう試みる。

4、（地域から世界まで）識字をめぐる諸問題や経過と未来について、次のような方法によって記録し、思い出させ、説明する。

(A) 常設および移動展示会

(B) 一日および週末の「識字フェア」

(C) 昼間および夜間の「自由入場」。識字センター、教員組合、保護者組織、学生団体、図書館、読み書きできるようにした人のための新聞、出版社、通信教育および遠隔的な教育の会館などで行う。

(D) 郵政当局に対してILY切手の発行を奨励する。

5、市井の人々の間に識字・非識字という話題を運びこむ。消費者団体および生産者・経営者・企業家の連合体は、他の関係団体と連携して、とりわけ以下のようなとりくみを進めるべきである。

(A) ILYのシンボルマークやスローガンおよびその他印象的なメッセージなどを次のようなものに付ける。

・ マッチ箱、石鹸、飲物、パンや果物の包装紙など一般家庭用品のラベル、Tシャツなどの衣料。

(B) 掲示板や公共交通機関の時刻表などのメディアで無料広告をするために、各国で作られている設備を十分に利用する。

6、車の運転席にいるところを想像する。その他非常に多くの独創的な活動があるなかで（読み書き能力のある人には知らせ、読み書きの不自由な人には学習を奨励するよう）、社会の注目を識字活動にうまく集めさせてきたのは、次のようなものである。

(A) 民衆劇場および街頭劇場（時には識字学級で書かれ制作された寸劇）

(B) 人形芝居

(C) 共同制作の壁画（一時的なもの、耐久的なもの）―フェンスや公共の建物をはじめ、壁画にふさわしく、きちんと許可された壁面に描く。

目標 3

とりわけ、政府機関、NGO、ボランティア協会および地域団体などの活動を通じて、非識字との闘いに努力する人々の参加を増やすこと

およそ三五の国際NGOが、年一回のユネスコの識字に関するNGO全体会議に毎回参加している。ひかえめに見積っても、これらの国際NGOのそれぞれが六〇の国々に平均一つの支部を持っていると算定できよう。そして平均してそれらの支部の三分の一以上（国際NGO一つにつき二〇支部）が、現在何らかの形で識字活動を活発に行っている。

するためには、諸々の社会的な力や人間的な努力が、事実上すべて構造的に表現され活発に関与することが必要なのだ。

野心的で幅広い大衆の動員を達成するために、NGOや他の関係団体は（いわば）「新しい眼鏡」をかけなければならない。そして、新たなILYの協力者を見極め活性化するという観点から、再び周囲にある組織の状況を「見る」必要があろう。特に見直すべきは、識字を提供することがどう利害に関わるのか全く明らかになっていない組織、潜在化した利害を行事のたびに掘り起こし、能動的なものへと顕在化させることが必要な組織である。新たな協力者となりうる組織には、次のような範疇のものが含まれる。

1、雇用人、企業家、ビジネス界。なるほど企業は、学校や他の教育施設と混同されるべきものではない。それは生産のために存在しているのであって教えるために存在しているのではない。しかし、計画経済であれ、市場経済であれ、企業家は、より良いビジネスにはしばしばより多くの学習が必要であることを悟るにいたる。非識字者や読み書きのやや不自由な人々の労働生産性は低くなりやすく、たとえば、安全規制などの基準の認識が低かったり、あまりそれらに適応しなかったりする。あるケースでは、企業の中で識字教育のコースが組まれた。工場が教室となったのである。

2、常にとりわけではないが本や雑誌をはじめとする商業出版の出版者は、国民が読み書き能力を付け維持することが自己の進歩的な私利にかなうとたやすくみてとることができる。大

政府組織と重なりつつ、政府組織の外側に、おそらく約七〇〇の国内NGO、つまりILYに向けた潜在的な団体が存在し、そこに国、州、地方のレベルにおいて三〇〇あるいはそれ以上の関係団体（協同学校、財団、ユネスコに提携しているものあるいはしていないものなど種々の文化センター）が付け加えられるだろう。このように、国およびその下位のレベルにおいて、識字活動に人々の参加を奨励するための核となるネットワークは、種類も大きさも影響力の度合いも異なった一、〇〇〇の団体に類するものがおそらく既に存在している。少なくとも、これだけのものが出発点にある。

どうすれば国際NGOは、ILYを好機により多くの支部を活性化させることができるのか、どうすればより多くの国際NGOが活動に参加するようになるのかは、後述する目標5に含まれる内容である。しかし、この手引きの利用者にとってそうした活動の重要な第一歩と見なすべき一連の活動がある。それらは以下の点を追及しようとするものである。

A、新たな組織的な協力者の見極めと活性化

国家元首や首相、文相によってなされる決定は欠くことができない。しかし、識字は、たんにそうした決定がなされたからといって、社会の中で生じてくるものではない。言葉を変えたと、政治的意志には、政府の責任にとどまらないはるかに多くのものが含まれるのである。多くの実例が示すように、識字が大きく進展

衆的な識字キャンペーンがうまく行われると、書き言葉への需要がしばしば供給をはるかに上回るのである。

3、基礎的な公共サービス。世界中の郵便局、電話・ガス・電気会社、法廷、銀行、社会保険事務所、病院で、(A)顧客が十分な読み書きの力を持っていなかったり、(B)絶対必要な書類が、ふつうに読み書きできる人にも理解できないいややこしい言葉でかかれてあったり、あるいは(C)少なくとも両方が少しずつあったりどれほど多くの時間が毎日損失されているだろう？時間の損失（ひいては金の損失）に加えて、行政的な書類事務の誤りが（法廷での）不正義や（病院での）身体的な危害につながるものである。

4、学界。だいたいどの地域でも、学校教育や大学教育を「象牙の塔」とみなす発想が弱まり、少なくとも理論的には社会にもっと敏感に反応すべきだという考え方にかわりつつある。しばしば欠落しているのは一方の教室やキャンパスと他方の街角やスラムや辺鄙な村々との間を実際に結びつけるものである。おそらく識字は、友好的な関係を育てるにふさわしいテーマになるだろう。学校や大学の当局者だけでなく、学生組織、教員組合、専門の学者団体の三者による同盟も両者の橋渡しとなることができる。

5、排除されてきた人々。土地を持たない農民、最貧困層、受刑者、虐待を受けている女性、長期失業者、先住民など。これらのグループのような人々は、二重に束縛される傾向にある。つまり、彼らがよく排除されたりあるいは排除され続けるのは、多分

に彼らが誤った方向に組織されているからである(そして、誤った組織化はしばしば彼らの不十分な読み書き能力による)。しかし、彼らがまさに誤ったほうに組織化されがちなもの(そして非識字になるもの)、まさに彼らが排除されたり排除され続けていることによるのである。この悪循環を打ち破る手助けをするために、ILYは新たな同盟が形作られる機会を提供するのである。しかし、冷静に次の点を心に止めておくべきである。つまり、NGOや他の関係団体は、排除されてきた人々にとって彼らを排除してきた構造の一部分と見える場合が少なくないということである。ILYの行事の間そしてそれに向けた準備において、このような見方をどのようにして変えることができるだろうか。

B、いくつかの実行可能な活動

まさに(大衆の関心を増大させるという)ILYの目標の下に述べてきた活動のすべてではなくともその多くは、国内および各国間において非識字との闘いの努力に参加する人々を増やすという目的にほとんどむりなく適合させることができる。

以下に付け加えた活動は、NGOや他の関係団体に既に加入しているメンバーを巻き込んでいくことと、さらに組織的また個人的な新しい協力者を引きつけ、できるかぎり輪を拡げていく方法についてとりわけ提案するものである。

1、姉妹提携。国々の間でかなり広くみられる姉妹都市の提携は、識字の分野における交換や「民衆どうし」の協力のためのす

ばらしい枠組みを作る。以下に紹介するように、その他の形の姉妹提携についても試みられ、あるいは示唆されている。

(A) 教育機関

● 途上国の個々の学校が(A)別の途上国にある学校と、あるいは(B)産業諸国にある一つの学校と姉妹提携することが可能である。少なくともILY前とその期間中は、そのような学校の姉妹提携は、識字に関する活動に絞るのがよいであろう。

● 教員の訓練機関や教育学部・研究センターは、言葉の能力もあり、引き出した成果を増大したり広める可能性も持っているので、二つあるいは多数の間で姉妹提携するのが特にふさわしいだろう。

(B) 専門職組合。地方および国の教員運動の支部、出版者団体、図書館員協会、朗読の専門家の組織では、異なった国々で同じような支部どうし一対一の協力が既にできている。ILYは、(a)そのような提携を系統だてるとともに、(b)それらを識字に集中させる機会となるであろう。

(C) より幅広い基盤を持った組織、例えば労働組合、青少年婦人団体もまた識字を中心に据えた姉妹提携を開始し普及することを検討するべきである。

(D) 国際間だけでなく国内の提携の組み合わせは、うまく行けば、都市と地方の間で(中等学校のそれぞれのクラスが別な村の識字センター、図書館と協力できる)、国土が広く多様な地理的条件をもつ国では異なった地域の間で(緑におおわれた農村地帯と山間の婦人クラブ)、そして社会的立場のことなる人(ラジ

才放送局のスタッフと漁船の乗組員)の間で識字を着々と進める活発な結びつきが可能である。

2、人的資源の動員。研究活動計画、青年の雇用プロジェクト、コミュニティ事業計画(ときおり兵役とも関連する)、国内事業計画、大衆的なキャンペーンなどの経験が示すところによれば、貧しい国々においても、現在以上に多くの男女が専任あるいは非常勤で自発的な識字の指導にあたり、補給や支援の仕事にたずさわる力をもっている。NGOや他の関係団体は、ときには珍しいところや意外なところから幅広い動員に着手し、実行することによって政府を助けてきた。それらのテクニックの中でうまくいった試みは、次のものである。

(A) 人材の発掘

● 系統だった見出しを立てる。すなわち最初はNGOや他の関係団体のメンバーからはじめ、次いで系統だった他の組織で活動している人々へと広げるという方法により(例えば、引退した男女の中から)潜在的なボランティアがときには驚くほど多く現われるという結果をもたらすことがある。

● あまり系統的でない手立てとしては、進んでサービスを提供したいと思う個人や団体が電話でできる識字「ホット・ライン」を設け、広く宣伝することもまた非常に有効であった。

● 「人材バンク」。識字活動に必要なさまざまなボランティア技術の需要と供給をつりあわせる人材バンクにもまた(地域的、国内的な)関係団体の共同のイニシアチブで取りかかることができるといわけ、もしボランティアが配置されたならこのバンク

はかなり安価に運営できよう!

(B) 目標を設定する。特定の協会あるいはクラブ(あるいはそのような団体の連合体)は、ILY期間中の三〇週間の間、一週あたり五時間のボランティア識字活動にメンバーの例えば二〇名を動員するよう目指すことができる。関係団体はまた、例えば、教員養成大学の学生団体、郵便局員、退職教員など動員可能な人的資源のプールだとわかっているところから現実的な動員率を設定する議案の通過運動に取りくむこともできる。

(C) 訓練と監督。これら二つの欠くことができないサービスは、一般に多くのボランティアが必ずしも識字指導や重要なバックアップの技術(統計学、輸送関係の管理、検査、読書室付近の人の配置など)の専門家でないからこそいっそう、専門的な能力と経験のある人がつくべきである。

訓練と監督は、それゆえしばしば政府によって必要とされるのである。しかしここにおいてすら、NGOや他の関係団体は、求められる専門家がしばしばメンバーのなかにいるので、助力が可能である。

(D) 意欲につながる刺激を与える。利他主義は、時々、金銭的でないさまざまな方法で支援される必要がある。先述した競い合いに加えて次のような刺激がありうる。

● 常にメディアにさらすようにすることは、ボランティア活動にそれによさわしい積極的なイメージを与える。

● 「時間を引き合わせる」方式。識字活動に参加する民間および公共部門の有給労働者は、自由時間に盗聴を避け、時間識字活

動に献身し、それに見合った時間、勤務時間を削減されるという方式である。

●教育制度における取り決め。一人二人あるいはより多くの非識字者に適切に識字教育を実施したことを条件として進級させ、また(教員資格)とする。何らかの種類の識字活動を、中等学校からの卒業、大学の入学と(一般生あるいは優待生の)卒業や教科履修証明の選択あるいは必修条件とする。調査のうえ特別単位の選択問題として識字活動の経験を含める(上述のことと同じだが、それはまた別の文脈で示唆している)。

●戒めの言葉。意欲を高めるための方法を制度化してしまうと取りくみが形ばかりになりうるし、動員の可能性を持つている個人さえも無関心にさせてしまうことがある。彼らおよび彼らの代表者(とりわけさまざまなNGOや他の関係団体)は、内発的な独創力をもって意欲を高める刺激と見なすこと、並びに上のような方法の履行状況を継続的に監視し改善する活動に加わることによって、この問題の克服を助けることができる。

3、基金を募る。ポケットからコインやお札をさしだすことは(常には限らないが)、国内および各国間での非識字との闘いへの参加に協力しているということ、その人がILYの目標3の達成を助ける行動を取っているという証明となりうる。NGOや他の関係団体は、近年飢餓救済や開発の仕事のために、非常に多くの人々のポケットからお金を集めるさまざまな方法について考える能力を十分に示してきた。従って、ILYの場合にはどのような方法を取るのがよいのか、この手引きで詳述する必要はない(常には限らないが)、国内および各国間での非識字との闘いへの参加に協力しているということ、その人がILYの目標3の達成を助ける行動を取っているという証明となりうる。NGOや他の関係団体は、近年飢餓救済や開発の仕事のために、非常に多くの人々のポケットからお金を集めるさまざまな方法について考える能力を十分に示してきた。従って、ILYの場合にはどのような方法を取るのがよいのか、この手引きで詳述する必要はない(常には限らないが)、国内および各国間での非識字との闘いへの参加に協力しているということ、その人がILYの目標3の達成を助ける行動を取っているという証明となりうる。

はなくとも)、関係団体によって奨励されるのがよい。

- クラシック、フォーク、ポップスのコンサート。
- 宝くじや賭け事(例えば競馬)。
- スポーツの対抗試合ならたいの種類のもの。

(D) 絶望的(希望のない)ときは、想像するよりははるかに少ないものである。世界でもっとも貧しい都市でもっとも貧しい学生のグループは、血液を売ることによって識字計画の資金に繰入れた(この例は、モデルとするために示唆しているのではない。ほとんどのような場合でも基金を集めるための方法はあるということを示すために引用したまでである)。

(E) ユネスコ・コアアクション計画と世界の識字のためのユネスコ特別口座(UNESCO's Special Account for World Literacy)は、地方の図書館員のための自転車、識字学級のための鉛筆や黒板、識字後の職業課程のための手道具という具体的な識字事業に(一般費用の手数料無し)、わずかが五ドル相当の寄贈物を指示できる。

4、識字を取り巻く環境を高めること。

識字を日々の生活のなかにあつてより役立つものにするに於いて、これまで無関心であった多くの人々に、NGOや他の関係団体を通じて貢献しようと思わせることができる。新たに識字に取りくんだ街々では、道路標識を準備し掲げるのがよいだろう。あるアフリカの国では、国語で書かれた交通規則が、まだ初心者ドライバーの手には入らない。

こうした点に取り組みことは、識字活動の発展のため個人的に

ないだろう。食欲をそめるために、識字活動のための基金を募るという文脈で試みたり示唆されてきたものを、ほんの少し紹介することにしよう。

(A) 自発的な課税。
●労働組合は、(おそらく雇い主の寄付に匹敵した)日給あるいは時間給分を寄付するようメンバーに奨励することができる。
●宗教団体は、10分の1税を奨励することができる。
●学校では、寄宿生が毎日の食事の一部(朝食のジャム)を一年間識字活動の基金に向ける。

(B) 後援。

●(例えば、特別識字行進大会で)歩いたキロ数、あるいは(開催回数が増加しつつある大マラソン大会の一つで)走ったキロ数に応じて募金してもらう。ここでは識字のシンボルマークのTシャツが何かと役に立つ!

●短く切った一日だけの仕事(Home-Log)。行政機関や会社やときには個人で、特別に学校から許可された学生を実際の仕事に雇い収入を手渡す。この様な運動を通じて二四時間で識字に五万ドルが集められた例がある。

●識字者と非識字者「対」の後援計画(「ユネスコ・クーリエ」のフレンド・シップ購読プロジェクトでは、購読者は彼ら自身に加えて、読む可能性はあるが金のない読者の名前を一人あるいはそれ以上の予約購読を受けることができるが、それと同様のものである)。

(C) 大衆的イベントへの割増入場料は(開催されるたびにで

貢献する余地が多々あることを理解していないようなボランティアのための理想的な形のプロジェクトとなるであろう。

目標 4

非識字とのたたかいにおける加盟国間の協力と連帯の強化

目標1と同じく、この分野での活動は、おそらく政府の関与が要(かなめ)になるだろう。NGOや他の関係団体の役割は、国内でも国際的にも多くの場合新しい発想を示唆し、補助(ほうじょ)するともに時には想起させ、また場合によっては追いつたてるところにあるといえよう。

行動の4つの基本線がこの文脈で考えられる。

A、理念

識字にはいくつかの手段(紙、鉛筆、技能、資金)が絶対必要であり(国内でも国際的にもそのような手段の分配には著しい不均衡があるために)持てる国から持たざる国への資源の移動が、当然でかつ主要なILYの関心となる。

チャリティ・バザー(罪滅ぼしの金を惜しみながら、温情的あるいは無分別に「かわいそうな人々」に与えること)は、しかし避ける必要がある。前段でそれとなく述べたとおり、ポケットに突っ込んだ手から集まったものではない不十分である。ここでNGOや他の関係団体は、幾分不定形ながらも重要な番犬としての機能

を持つている。つまり、途上国と産業国、送る側と受け入れる側の双方に根ざした集合的利害関係や会員たちを代表していることで、温情主義に対抗して「対話」と「連帯」の代弁者となることができるのである。

B、途上国どうしの技術協力(TCCDC)

途上国どうしの技術協力という原則が今や広く宣言されている。にもかかわらず、南の国どうしの対話は遅々として進まず、複雑で不経済なことが多くあるため、期待と希望に比して、その原則の実践は幾らか遅れがちであった。

ILYに臨んで、NGOや他の関係団体は、識字に関連した途上国間協力を促進し、簡便にし、その経費を切り詰める実践的方法を考え出し、少なくとも試みることができるであろう。その可能性は以下のとおりだ。

- 1、共同研究計画と研究成果の普及。
- 2、新しく字を覚えた人にふさわしい読み物などの共同出版(とくに言語が似ている地域で)。
- 3、定期刊行物や他のマス・メディア間での「ゲスト評論家」の特別記事のやり取り。
- 4、個人あるいは団体の交流に参加する専門家などの人々を、団体のメンバーの家庭で(食事や宿泊の世話など)相互にもてなすこと。

C、北と南の交流

海外からの協力なしには、途上国は、どれほど献身的に取りくもうがどれほど多くの人間を動かそうが、非識字克服に向けて前進することは不可能でないにしても難しい。識字のための国と国、国とNGOの間の協力の流れを促進することは、送る側の国の多くの関係団体にとってILYの第一の目標となり、他方の受け入れる国々によって支援されるであろう(例えば、受け入れ側から送った側にあてて、どのように使ったかを直接報告する手紙を送る)。

1、世論の喚起と活発化は、既述の目標2で提案したすべての方法のほか、その他多くの方法によってもたらされるだろう。例をあげてみよう。

(A) 受け入れ国と受入計画というテーマは、情宣活動にとつて特に効果的である。それはまた、その他の面での与える国と受けとる国の関係の実態と国連組織の行動を写しだすであろう。

(B) 目標設定についても検討すべきである。援助国Xにおいて、例えばILYの期間中に全中学生の三〇% (または女性団体の地方支部、あるいは労働組合の企業支部の三〇%) が当該国の識字の海外協力についての移動展示会を訪れることを保証するよう、関係団体の特別課題チームが企画することもできる。

2、政策決定者に影響を及ぼすこと。議会への働きかけ(ある場合には国家的規模の大運動に拡がる)として、すべての国会議員のもとに電報、電話、手紙(これ以外の目的のためにも特に「識

字はがき」をつくればよい)などが届くよう組織することができよう。

3、文字を覚えた人達の工場で作られたものを売りに出すことによって識字への支援と共に貿易を拡大する(そのような製品は、識字とは何かを伝えるメッセージをも運ぶだろう)。

D、物資の協力

過去一〇年間に、産業諸国においてまだまだ使える約一三万個の中古の工具が、各家庭や企業からボランティア団体に寄贈されている。それらは、途上国の生産学習グループに、手直しの上無償で供与された。そうした学習グループはしばしば識字や識字後活動の枠組みの中で活動しているのである。そのような工具が、北西ヨーロッパだけでもはるかに多く三億五千万個は集められると見積られたことがある。

NGOや他の関係団体によって集められ、再生された学校や識字教室およびその他の基礎教育推進機関に送られてきた物的資源は、手動の謄写版印刷機、ペダル式ミシン、書物(南北の仲間によって協力して念入りに選ばれたもの)、眼鏡(識字教室を通じて、一〇%もしくはそれ以上の成人の学習者が、読み書きできないほどの視力の低下を抱えていることが一般にわかっている)などである。

物資のあたりで運搬することは一回収や再生に自発的に参加することが重要となり、近隣や家庭に手が届く必要性を伴い、援助する側と受け入れる団体の地域間の交流を促進する可能性をも

ち、そしてあまり現金(と硬貨)を必要としないので、NGOやその他の関係団体が、識字に関わる国際協力・連帯に献身していることを示すのにびびりたりの方法である。場合によっては、無料の搬送を貨物輸送会社に頼める。しかし有料の場合もまたあるだろう。

目標 5

非識字とのたたかいにおける国連システム内の協力、さらに一般的にはすべての政府間並びに非政府団体間の協力を強化すること

これまでに述べてきた活動の一つ、幾つか、あるいはすべて、およびその他のILYの活動に挑戦していくためには、NGOやその他の関係団体は組織としての一定のステップを踏んでいくことが必要となるだろう。関係団体の内部でも団体間でもイニシアチブを発揮し、協力を強める必要がある。会議や取り決めなどの制度ばった方法は、たとえおもしろいもの(あるいは官僚的な)ものにも思えても、いっそう魅力のある活動の下地となるだろうし、それは、この手引きに興味を持った読者に当面の行動日程を提供してくれるのである。

A、団体の内部で

国際、広域、国内および地方のNGOや他の関係団体は、次のような点を構想することができよう。

- 1、組織全体にわたるILY行動計画を作成し、採用する。

2、執行機関の会議（執行委員会、総会など）を開催し、識字に関連した問題を正式に提起し、論議し、さらにはILY活動計画の策定、評価を行う。

3、公報、会報、雑誌、日刊紙、およびその他組織内外の情報交換を図る定期不定期の手段を利用して、組織の構成員（組織および個人）や支持者にILYの活動についての意見を求めたり情報を伝える。

4、それぞれの組織の関心、伝統、実践にそったILYの活動の手引きを発行する。おそらく、この手引きを一部抜粋するか、もしくはこれを参考に作成することになる。

5、一部もしくはすべての支部にこの手引きを配布する。

B、団体間で

多くのILY活動に必要なのは、NGOや他の関係団体が、二団体、数団体、あるいはもっと多数の間で、共同して活動を行うことである。上述した様々な部門で、短期プロジェクトのための課題チーム、同盟、提携、ネット・ワーク、および調整委員会などを提案してきた。これらは、結びつきの持続性や緊密さや頻度がさまざまに異なっている。このことに関わって、関係団体によって有効なのは、次のような取り組みである。

1、ILYに向けて、以下の方法により団体間協力の組織的な基盤を拡げるよう努力する。

(A) より多くのNGOを引き入れるよう努める（例えば、現

在ユネスコと公式の提携をしている五四〇以上の国際NGOのうち、年一回の識字に関するNGOのユネスコ全体会議の活動に毎回名を連ねているのは、わずか三五団体である）。

(B) 先述の目標3のところでも論じた「新たな協力者」を積極的に獲得すること。

2、新しい組織作りには煩わされるよりは、ILYに向けた協力のために既存の調整的な機構（委員会、連絡のための公報など）をできるところで活用する。

3、協力のさまざまなレベルの特性に応じて協力的体制や活動について調整する。

(A) 地域レベル。村や郡部、都市近郊など、非識字や機能的非識字、新たに文字を覚えた人にもっとも「近い」ところでは、全国的な組織に加盟していない地域グループをまきこむために特別な配慮が必要である。

(B) 全国レベル。中央政府ばかりでなく、ILYのための特別機関など全国組織（経済、文化など）とも接触を保つ。またILYに向けて活性化される国連システムの諸組織に関係の深い国内団体と接触を持つ。

(C) 広域および国際レベル。NGOや他の関係団体は、ユネスコの地域事務所や地域教育プログラムとこれまで以上に緊密に協力できる。地域教育プログラムの一つは非識字の根絶を目的としている。広域的にも世界的規模でも、他の国連機関との接近は望ましい（たとえば、ユニセフはすでに基礎教育の分野でNGOとともに活動している。国連の開発計画は、最近になって非政府

組織との協力を深めることになった。

結 語

この手引きが、あなたの手元に達し、労を惜しまずここまで読み通していただけたなら、あなたも所属している機関も団体も、ほぼまちがいないILY活動部隊となる力を備えているだろう。

国際識字年は、世界のどこかにある戦闘指令所が中心となって唱導した事業ではないということを強調して、この手引きを締めくくることにしよう。国際識字年がどんな年となり、どんな成果をもたらすかは、あなたのような人が識字年に関わって、どんなことをしようと決意するかにかかっている。

今日からでも始めるのに早すぎはしない！

そして、今着手するということは、ILYの六番目の最後の目標に向かって最初の一步を踏み出すことになる。

すなわち、二〇〇〇年にまでに、非識字を根絶することを目標として行動に立ち上がるのである。